

授業科目名 <英訳>	ドイツ語学ドイツ文学(特殊講義) German Language and Literature (Special Lectures)		担当者氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	後期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	20世紀音楽とは何だったのか(2)								
【授業の概要・目的】									
イギリスの歴史家ホブズボームのいうところの「短い」20世紀は、音楽史にも当てはまる。それは第一次大戦と前後して幕を開け、1970年前後のポストモダンの時代の始まりとともに、緩やかに別の時代へ移行していき、おそらくは1990年前後にほぼ終息した。従来アヴァンギャルド音楽の歴史としてのみ記述されることが多かった西洋音楽史の20世紀であるが、この授業ではそれを、従来の西洋音楽史の「アヴァンギャルド音楽」「アメリカ娯楽音楽」「クラシック音楽の演奏文化化」という三つの支流への分裂として眺める。それと同時にこの授業では、「現代」としての20世紀音楽が、「近代」としての19世紀音楽（これはクラシック音楽の全盛時代であり、またヨーロッパのブルジョワ階級によって担われた音楽であった）から、どの程度まで連続的な現象として眺められるべきか、つまり20世紀現代は結局19世紀近代を克服することができたのかできなかったのかという問題に、焦点を当てようと思う。									
【授業計画と内容】									
<p>予定しているのは以下のテーマであり、それぞれに3回程度の授業を充てる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドルノ『新音楽の哲学』とトーマス・マン『ファウストゥス博士』 ・「20世紀音楽の原理」としてのコラージュ ・モダニズムとアヴァンギャルドは何が違うのか ・ロマン派としての映画音楽、そしてクラシック・モダンの「映画音楽化」 ・「戦後」とアヴァンギャルドの黄金時代：トータル・セリーとモダン・ジャズと 									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートのみによる									
【教科書】									
使用しない 毎回レジメを配る予定									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>岡田暁生『西洋音楽史』(中公新書) ホブズボーム『極端な時代』(三省堂) アレックス・ロス『20世紀を語る音楽 上下』(みすず書房) そのほかにアドルノの『音楽社会学序説』及び『啓蒙の弁証法』及び『新音楽の哲学』には頻繁に言及する予定なので、ぜひとも一読されたい。</p>									
(その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等))									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									